

令和3年度 愛知県立国府高等学校 自己評価結果等

重点目標	歴史と伝統を重んじ、新たな時代に向かって切磋琢磨する生徒の育成 ①学ぶ術を学ばせるとともに、高い志を育み、積極的な進路目標の達成を支える ②国府高生にふさわしい品格を持ち、優しさとたくましさを備えた生徒の育成を図る ③身体的にも精神的にも健康を保てるように自己管理できる生徒の育成を図る ④教職員一人一人が健全なワークライフバランスが取れるよう連携・協力する		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
安全管理 (総務部)	防災意識の更なる向上	①避難訓練で防災意識を持たせる。 ②グループワークでより具体的な環境設定を行い訓練を行う。 ③「きずなネット」を利用した訓練を行う。	①全学年のグラウンドへの避難訓練が出来なかったことが心残りである。他の訓練は計画通り実施でき、定期的に防災意識を持たせることができた。 ②夏休みの出校日に、一人ひとり異なる住居環境と自然災害を設定し、防災意識を持たせることができた。 ③「きずなネット」ではなく、「防災用伝言番」の存在と活用法を防災だよりを通して防災意識の向上を図った。
学習指導 (教務部)	次期学習指導要領実施に向けた授業改善と評価規準の作成および指導計画の編成	①教科の目標と目指す資質・能力を教科会等で情報交換する。 ②タブレット等のICT機器を活用した授業改善に取り組む。 ③次期学習指導要領の評価規準の作成と評価の方法を検討する。 ④次期学習指導要領に基づく年間学習指導計画を編成する。	①活発な教科会を推し進め、新学習指導要領と「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料等の情報共有を図れた。 ②あいちラーニングの主管校としての役割は終えたが、研修部、図書情報部とも協力して今後も先進的な取組みを推し進めていきたい。 ③④県からの様式を待っており、年間マネジメントシート、評価計画表、評価規準等、次年度に向けての準備を急ぎたい。評価の場面や方法、見とり方、ABC評価とその総括など、教会内で共通理解を図ることや、生徒・保護者への説明なども今後の課題となる。
生活指導 (生徒指導部)	国府高校にふさわしい品格を持ち、優しさとたくましさを備えた生徒の育成	①先手挨拶と返事の励行 ②スマートフォン等の利用規程の遵守とマナー指導 ③時間に対する意識の改善と遅刻指導の徹底 ④コロナ禍の健康に配慮した中での生活指導	①廊下ですれ違う生徒はよく挨拶してくるようになったが、朝の校門での挨拶が寒くなるにつれ元気がなくなっていった。 ②マナーへの意識は感じたが、全体に浸透するには引き続き呼びかけていく必要がある。 ③概ね学年が上がるにつれて遅刻が多くなる傾向があった。 ④遅刻をしないよう意識は持っているので、行動に移せるよう指導を継続していく。
いじめ防止 (生徒指導部)	互いの豊かな個性を尊重し、人権意識の涵養に努める生徒の育成	①いじめを起こさせない雰囲気作りの醸成(未然防止) ②いじめが起きる前段階で情報収集し、重大化する前にその芽を摘む(早期発見) ③いじめが起きた場合の適切な措置(組織対応)	①全校集会が実施できない中、教室内での活動が多く、担任との関りがプラスとなればよいと思う。 ②3年生の生活アンケートを12月に変更した。1月では受験等、時期的に不適切である。 ③相談やカウンセリングを必要とする生徒たちのフォローをすることができた。
生徒指導 (特別活動部)	「学校の元気」の原動力となる	①日頃の生徒会活動の充実。(学校行事、委員会活動、部活動) ②生徒主導の学校行事にする。 ③「一流」に触れる機会を作る。	①新型コロナウイルス感染症対策を講じながら学校行事や部活動を実施した。 ②委員会活動を積極的に実施し、生徒主体の学校行事を実施できた。 ③昨年度行えなかった文化的行事を実施し、一流の古典芸能(落語)に触れることができた。
進路指導 (進路指導部)	高い志を育み、主体的な進路目標の実現を図る進路指導体制を整える	①各学年と連携しながら、生徒の進路意識の高揚・学力向上・資格取得の奨励に努める。 ②キャリア教育の充実を図るとともに、適切な類型選択や進路選択を促す。 ③大学入学共通テストや英語外部試験に関する情報の整理に努め、必要な準備を進める。	①各学年と連携しながら、課外授業や学習会、小論文指導や面接指導の充実を図り、学力向上および進路目標実現の一助とすることができた。 ②実施可能な形態での進路関連行事を計画・実施し、生徒に対し主体的な類型選択や進路選択を促すことができた。 ③大学入学共通テストや英語外部試験に関する情報を集約・整理し、必要な指導体制を整えた。
教員研修 (研修部)	教育のスキル向上を目指す	①新学習要領に向け、教務部と連携して教科主任会を開催する。	①「指導と評価の一体化」の参考資料をもとに、各教科で授業改善と評価規準の課題等の検討を行

		<p>② ICT 機器の活用と言語活動の充実等を意識した授業改善を呼びかける。</p> <p>③各種教員向け研修参加への広報活動を充実する。</p>	<p>うことができた。</p> <p>②研究授業と公開授業週間を中心にICT機器を活用した授業の改善がされてきたが、さらに充実にできるよう進めていきたい。</p> <p>③現職研修講話会や中堅教諭等資質向上研修者の研究内容を全職員が研修することができた。時間的な制約等があるが、興味深い内容となるようにしていきたい。</p>
図書館活動 (図書情報部)	図書館利用を増加させるための広報活動の充実と学習教室として使用するための模索	<p>①「図書館だより」配布時に図書委員に周知をさせる</p> <p>②図書委員による「図書館だより」での紙上ビブリオバトルの実施</p> <p>③各教科に図書館を活用させた授業提案を行い、実施の可能性について返答を得る。</p>	<p>①微増ではあるが、図書委員に周知させたことにより注目度の低かった本が多く生徒の目や手も触れることになり、一定の効果はあったと考える。</p> <p>②参加した生徒から読書に対する前向きな回答を得ることができ、一人でも本との向き合い方が良い方向に向いたことは良かったと考える。</p> <p>③年間指導計画で図書館を利用した授業の模索は続けているが、実現にまでは至っていない。</p>
学校保健 (保健部)	学校管理下(部活動、学校行事)におけるけがの減少	<p>①事故発生状況を集約するとともに、全職員・生徒が周知し未然にけがを防げるようにする。</p> <p>②救急講習会や「けが予防」講習会を通して知識と意識を高めるとともに、未然にけがや熱中症を防ぐように配慮して行動させる。</p> <p>③生徒保健委員会と美化委員会が行う日常点検表に校内危険個所のチェック項目を追加し早期発見に努める。</p>	<p>①昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、運動不足になっている生徒、接触しない運動等が中心であったため、けがは少なくなったが、それだけでなく部活動の大会が再開され活動が本格的になった後もけがの発生状況は昨年度までより少なくなっている。けが予防の取り組みの成果は出てきていると感じられる。</p> <p>②マスク着用の必要性から、授業中でも水分補給ができるようにし、熱中症に対する注意喚起を行い熱中症は少なかった。</p> <p>③「保健だより」を生徒一人ひとりに配布し、けが予防の意識を高めることはできたように思う。</p>
学校保健 (教育相談部)	高校生活にうまく適応できない生徒の早期発見と個性に配慮した適切な対応	<p>①生徒の個性や家庭環境および保護者の思いなどに充分配慮をしながら、適切な教育相談を行う。</p> <p>②教育相談委員会を定期的に実施し充実させる。</p> <p>③欠席、遅刻、早退の状況把握を確実にし、問題を抱える生徒の早期発見に努める。</p>	<p>①問題の早期発見と個性に応じた対応はとれたが、今後は医療機関との協力体制をつくりあげていきたい。</p> <p>②相談委員会の実施については、概ねこのかたちで実施できればよい。</p> <p>③担任、養護教諭による健康観察のおかげで情報が多く集まり、それを職員で共有することができている。</p>
情報管理 (図書情報部)	ICT 活用のための環境整備と活用の推進	<p>①生徒用タブレットの運用規定の策定</p> <p>② ICT 活用のための環境整備</p> <p>③タブレットの活用事例の研究</p>	<p>①運用規定を策定し、生徒向けに説明することができた。</p> <p>②生徒用タブレットの貸与を開始できたが、故障等のトラブル対応やその防止策を考えなければならない。</p> <p>③ICTの活用法を個別に提案はできたが、職員全体への提案や活用推進をどのようにしていくかが課題である。</p>
商業部 (総合ビジネス科)	タブレットを活用した教材の研究	<p>①資格取得のために有効なタブレットの活用についての研究</p>	<p>① プレゼンテーションルームが整備され、タブレットを接続する機器や、画像編集を行うためのデジタルビデオカメラや、ビデオスイッチャーなどが整備された。これにより、1クラス全員が一つの教室で実習することが可能となった。課題としては備品管理などの徹底や、これらのハード面の有効活用する方法を構築していくことなどが挙げられる。</p>
学年会 (1年)	高校での新たな人間関係の構築と基礎学力の定着	<p>①授業への意欲的な参加を意識させるとともに家庭学習の習慣を身につけさせる。</p> <p>②LTや学校行事などを通して、クラス内を始めとする人間関係を構築させる。</p> <p>③挨拶や清掃を率先して行うことができるように促す。</p>	<p>①大半の生徒が小テストや週末課題を中心に着実に家庭学習に取り組むことができた。しかし、考查前になって焦って学習に取り組む生徒も多いため、普段からこつこつと取り組ませることが課題である。</p> <p>②学校行事に主体的に取り組み、クラス内の人間関係を深めることができた。</p> <p>③多くの生徒が、年間を通じて清掃に熱心に取り組むことができた。しかし、挨拶に関しては、できる生徒に限られてきたので、全員が率先してで</p>

<p>学年会 (2年)</p>	<p>中堅学年としての自覚を持ち、主体的に学校生活を送る</p>	<p>①中堅学年として、他学年を慮ることができる生徒の育成 ②主体的・意欲的に学力向上を追求する生徒の育成 ③進路目標の実現に向けて、積極的に調べ、学ぶことができる生徒の育成</p>	<p>きるように促していきたい。 ①学校行事や部活動を通して、他学年と連携をとりながら、学校の中核としての意識を持たせるよう努めた。 ②授業を中心に学習習慣を身に付け、タブレットを利用するなどして主体的に学習できるきっかけを作るよう努めた。効率良くタブレットを使う方法を考えていきたい。 ③面談や課題を通して、学部研究や企業研究ができる機会を設けた。目標が明確に決まっていない生徒へのアプローチを考えることが課題である。</p>
<p>学年会 (3年)</p>	<p>進路目標の実現</p>	<p>①業後および土曜の学習会を実施し、積極的・主体的に参加させる。 ②課外や模試・各種検定に意欲的に取り組ませる。 ③進路設計をするための必要な情報提供を行う。 ④具体的な進路目標を設定させ、保護者と連携し取り組ませる。</p>	<p>①おおむね業後も土曜も学習会に積極的に参加していた。継続して粘り強く取り組む生徒が見受けられた。 ②最後までやり遂げるように教科や担任から声掛けや指導をした。 ③進路指導部からの情報や担任の持っている知識を担任会で共有し、提供した。最後には生徒自身で深く考察することができるよう指導する必要性を感じた。 ④生徒や保護者が進路実現に対して弱気になった場合、考えに丁寧に耳を傾けつつ、背中を押す助言ができるよう努めた。</p>
<p>総合評価</p>	<p>学校経営方針を踏まえて各分掌及び各学年が重点目標を設定することができた。 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学習活動や学校行事を企画・運営するにあたって創意工夫を求められ、前年度ほどではなかったが中止、延期、縮小を余儀なくされた。そのような状況下でそれぞれの重点目標の実現に向けての工夫や努力を重ね、概ね成果を上げることができた。 なお、新たに見つかった課題に対しては、解決に向けて学校全体が一丸となって取り組んでいきたい。</p>		